



春は花 夏ほととぎす
 秋は月 冬雪さえて涼しかりけり

道元禪師

平成23年1月 雪景色

龍谷院たより

発行所 龍谷院
 茨城県東茨城郡
 城里町下阿野沢1509
 TEL 029-289-3108
 FAX 029-289-3025
 編集人 蘭部 義光

新年のご挨拶

住職 蘭部 義光

年改まり輝かしい新春を無事
 で迎えられたこと何よりおめで
 てください。

今年卯の年です。十二支の
 第四位に当たる年です。

兎は大人から子供たちにま
 で親しまれる動物です。

子供の頃、兎を飼ったこと
 があります。「アングラ」と言

う種類の兎でした。「アングラ」
 は毛が長くなりそれを売って、

収入にしていたようです。世
 話役は子供たちの役目、学校

から帰ると毎日兎のえさ取り
 に野山を歩いた記憶があります。

今になっては懐かしい思い出
 です。

兎で有名な話に「今昔物語」
 の「三獣、菩薩の道を行じ、

兎身を焼ける話」があります。
 老人の姿をした帝釈天が猿と

狐と兎に食べ物を求めます。
 すると猿は木の実を採って施し、

狐は鯉をくわえて捧げます。
 しかし、兎は何も施すものが

ないので火中に自分の身体を
 投じて供養しようとしています。

帝釈天はその仏心を尊く思い、
 月の中に卯の姿をあらわした

というお話です。もともと
 インドのお話でもあります。

布施する心がいかなるもので
 あるかということをお話してく

れます。

今年の五月より茨城県第一
 教区の教区長を務めることに

なりました。教区の代表と事
 務のとりまとめ等、仕事が一

つ増えました。四年間の長い
 期間です。

また、新総代さまのもとで
 ボランティア活動の話もでて

いるようです。

今年卯のごとく、希望も
 より高く、飛び跳ねる思いで

過ごしたいと思えます。

今年も宜しくお願ひ申し上
 げますとともに、皆様の更なる

ご多幸とご健勝をご祈念申
 し上げます。

新年のご挨拶



総代 加藤 盛一

新年あけましておめでとございます。檀信徒の皆様には、輝かしい新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

日頃は、菩提寺の護持につきまして、多大なご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りみますと、地球環境の中で温暖化が進み、本当に暑い真夏日が記録され生活上大変苦労いたしました。災害もなく暮らすことが出来ましたが、私天のご加護の賜と深く感謝をいたしております。

私たちの菩提寺龍谷院は、秀峰存岱大和尚様が創建されて、爾来、今年で五百五十二年の星霜を経ております。幾度となく修復を重ね、昭和五十四年には本堂の改築落慶法要、平成に入

り、十五年に待望の客殿改築、十七年には観音堂の改築落慶法要を行ない、この間駐車場の整備と、正面石段の修復工事を行ないました。又、二十一年には、当院四十四世耀月義光住職の、晋山結制法要と合わせて位牌堂の新築落慶法要を執り行ない、院内が立派に整備されました。偏に檀信徒皆様の尊き浄財喜捨のご協力の賜と、深く感謝申し上げます。

今後は、龍谷院の繁栄を切に祈り、子孫が尊きご縁を保てますよう、菩提寺の護持に努めてまいりますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

おわりに檀信徒皆様の、ご健康とご繁栄をお祈りいたし新年のご挨拶いたします。

寺院を訪ねて (二) 那珂市 龍昌院

戸村瑠璃山龍昌院は、文明十六年(一四八四)戸村城主戸村義広公が龍谷院第二世無學宗藝大和尚様をご開山に懇請して開創されました。



本堂

延宝四年(一六七六)に建てられたとされる本堂は明治四十一年(一九〇八)の関東暴風雨により倒壊し、その後は残材にて仮本堂を建て八十年あまりを過ぎることになります。

三十四世村瀬道仙方丈は入寺

以来、本堂庫裡の再建を発願しておりました。昭和五十八年樺の材料一切を準備し、檀家の皆様に諮り寺檀和合のもと五年をかけて昭和六十三年堂宇の完成をみました。

平成に入り、檀家の皆さんの協力を戴きながら境内整備も進み山門も建立されました。

平成十九年十一月の道仙方丈十七回忌法要は、本寺龍谷院現住職菌部義光方丈様を導師に拝請申し上げ営ませて戴きました。誠に有難うございました。

龍昌院住職 村瀬 記



山門

龍谷院の沿革③

山門と扁額

龍谷院の参道途中の石段の腹に山門があります。この山門は何回かに亘って建て替えられたり修復されたりしています。

現在の山門は今から二〇〇年前の文化八年(一八一二)、龍谷院三十一世大俊良寛大和尚の代に建て替えられたものです。

それから約九十年後、四十五世祖嶽見宗和尚の代の明治三十五年(一九〇二)の大暴風のため



写真1 明治38年に修復された山門 (撮影は平成11年)



写真2 現在の山門

屋根が吹き飛ばされるなどの大きな被害に遭いました。そのとき、大本山より慰問金として金一円を賜り(当時一円は米八升に相当)、この御真金を基本として、龍谷院の自費で三十八年一月十二日に修復が完了しました。そのときの山門が写真1で、これは平成までそのままでした。なおこのとき、それまで木端葺きだった屋根がトタン屋根になりました。

さらに平成十年の台風で再び屋根が大破し、十一年の春、祠

堂金で修復され、現在に至っています(写真2)。

次に扁額についてですが、この山門に「瑞雲山」と金箔が施された扁額が掲げられています。これは平成十一年の修復のとき、それまでの扁額が風雨にさらされて文字がよく見えない状態になっていたもので、その文字を複製して刻字し金箔を施したもので、上阿野沢の所孝子さんの寄付によるものです。

もとの扁額は額つきの板に篆刻し漆仕上げをしたもので、江戸時代前期に活躍し、稀代の名僧と言われた心越禅師の手によるものです。

心越は中国から日本に渡り禅宗を広めていましたが、ねたみを受け幽閉されてしまいました。それを知った水戸二代藩主徳川光圀が、幕府に申し入れて水戸に招き、天徳寺の住持としました。心越はのち、水戸八幡町に曹洞宗祇園寺を開きました。

心越は禅宗の復興に力を尽しただけでなく、書画・篆刻・医

術などにすぐれ、当時の中国の新しい文化を幅広く日本に伝えました。心越の真筆による扁額が龍谷院にあるのも龍谷院の格の高さを示すものであると誇りを覚えます。

心越禅師によるもとの扁額は龍谷院の本堂内に大切に保存されています。



平成11年まで掲げられていた扁額



現在の扁額

今は車社会なのでこの石段をのぼることはほとんどないようですが、あじさいの季節にでも、本来の参道である石段をのぼり、往時を偲びながら山門をくぐって、本堂に参詣するのも趣があるものと思います。(杉山記)



龍谷院の行事

※十一月十日(水)

梅花流茨城県奉詠大会が結城市市民会館アクロスにて開催されました。



※十一月一日(月)

龍谷院開山忌法要布教師は山形県の三浦信英老師をお呼びしました。

※十月二十四日(日)

梅花流特派講習会が龍谷院を会場に行われました。茨城県第一教区六ヶ寺の講員約六十名の参加がありました。講師は岐阜県よりお越しの東円寺住職、松山宗永師範でした。

※平成二十三年元旦

龍谷院元日ご祈祷会が午前十一時より観音堂にて初祈祷が行われました。参加者は十五名でした。

住職の動向

※十一月十三日から十四日

笠間市 龍泉院晋山式に随喜。

※十一月二十七日から

二十八日
結城市 東持寺晋山式に随喜。



施餓鬼会の開催

平成23年8月9日(火) 〆切は7月31日

| | | | |
|---------|-------|---------|-----|
| 午前10時より | 特別施餓鬼 | 新盆特別供養料 | 1万円 |
| 午前11時 | 一般施餓鬼 | 先祖代々塔婆 | 5千円 |
| 昼食 | | | |

新盆の家も先祖代々の塔婆を建てましょう。

申し込みは早めにお近くのお世話人までお申込みください。遠方の方は、電話にてお申込み下さい。

『編集後記』

今年には正月早々、続けて雪が降りましたが、昔から雪の多い年は豊作になると喜ばれました。

でも日本海側は豪雪に次ぐ豪雪に襲われ、ニュースを見るたびに、本当にかわいそうだと心が痛みます。茨城県などは自然災害が少なく、本当に恵まれているとありがたく思います。日本海側、北海道の人々のためにも、一日も早い春の訪れが待たれます。

龍谷院の末寺龍昌院について、龍昌院のご住職様からご寄稿をいただきました。那珂市方面から城里方面へ帰る途中の、戸村十文字の信号のところにある寺院なので、すぐ目につきます。「曹洞宗龍昌院」の門柱があるので、龍谷院と関係があるとは思っていません。龍谷院には、龍昌院を含めて七か寺の末寺があります。それらの寺院について認識を深めるのも意義があると思います。

施餓鬼会の案内、まだ早すぎると思いますが、次回の「たより」では間に合わなくなるかも知れませんので、今回お知らせしました。立春という嬉しい節氣を迎えました。檀信徒の皆様のご多幸とご健勝をお祈りいたします。

編集委員 稲川 清

杉山三千雄